

武江年表

七

扶

別記

武藏

			二	和
		九	一	書
	架	三	九	門
	函	三	三	
	冊	三	號	類

庫	文	閣	內	
一		二		和
四		九		書
函		三		
五	九	三		
架	冊	號	類	

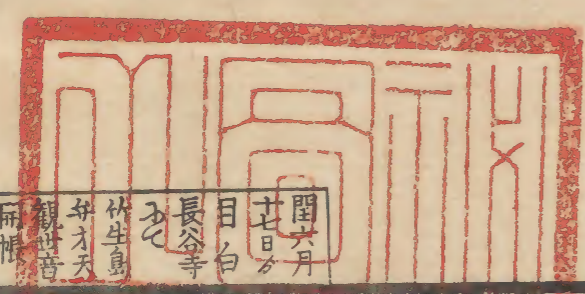
內閣文庫	
番號	和 21933
冊數	9 ( 7 )
函號	141 88

共八

卷



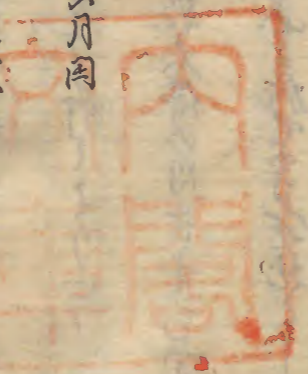
備編脩  
用脩



武江年表卷之七  
興替

寛政九年己酉

二月廿廿日改元 六月同



○天明七八年の頃より碑文谷法花との仁王の諸成就より一より貴後  
 男女家情より事より次より群集夥より十二年より一より純より  
 二月廿廿日改元 ○米穀豊饒あり ○永代より成田山不動寺  
 修葺あり ○五月十九日  
 名貞祿より清つ ○七月七日狂言師平秩本化年  
 通称倉橋喜平より二画作由  
 結つて云市谷長次  
 八月八日大風雨家屋を損み深川辺大水 ○八月市谷先徳院より川口湯杖  
 寺地蔵を因帳 ○前能人谷風祝之助小野川喜三郎横綱免許又九段格

武江年表卷之七

とつる角力取行る○十月より始り大川筋を外川と新普請中洲築地  
取拂せしむ翌年より元の水面上る○十二月廿日夕より夜一うけと再甘  
露降○深川寺町法雲院不動尊流石出り新穀の者多し  
○本新相代町本苑火除成り代地深川を指戸田末女正殿は屋敷  
の地をさむる○祇佛の開帳年々盛んありて敷名ありしとど寛政より  
享和迄のる委しく流せる物せりし尚實繁華を次編み詳あるべし

寛政二年庚戌

正月廿一日本新相代町より出火砂村百疋屋迄焼る○三月九日画人劉安  
生卒 号山麻布 曹僕より録 ○三月十日下谷稲荷社祭れ産子町より出り速物出  
本家の時子丸子の流産より本柄塗の  
敬を不とせりて同例に於て後中絶せり ○永代寺より京師大佛の内奔才て開帳この  
る境内見せ物不士生程言を出入せられしは必し於て是を物と一幫筒

の輩も酒宴の身ふこれとぞ○神奈川浦崎と碧世青江戸ふく開帳

○八月十日野栄川院典信卒 卒年 ○八月廿三日前白付点者

川柳卒 俗説せりてこれを傳へし是或折柄と号し教を痛む今ふら流るるは公の  
孫傳川柳五世及び折柄の后軒年々不持せり按るる不宝曆の以武出川といふ  
能楽の白糸ありしより俗説を述る川柳もこれより變せりとのとあり

○九月六日儒師山中天水卒 二十五年名智と稱稱年  
後身乃安ふ不葬 ○十一月廿七日夜大地震

○十月琉球人來聘 正使宜博 薩摩のりあて留士とて詠つ 宜博王子  
まゝのりあて留士とて詠つ

○十一月二日夜甘露降 ○新田回春成 天のよりこのくは御名貞権を田蜀山  
武仁の維り回春の言あり

○琉球評判 教島中良著 又朝鮮條も刊せり ○磁器焼絶始る

同 三年辛亥

○正月十五日儒師年次旭山卒 辛九才名先禮林立助 徐川法禪寺不葬 ○二月十日より五十日の間法

若寺勅世書開帳 ○市井の法令を改むる坊間の費用を減し積令始る

翌年六月秋稻折末向一町倉折在秋稻七剣建あり是米價貴踊のとれ

或の不時の災變の初穢民を救ふんが為の 河仁あるあり ○京師の子寄堵

庵が才子中沢道二系西陣系松尾居 龜尾久玄持 江戸を身りて芝場町ある医師前田一貫が

宅よてん學を講するが乃不難集りたる友林田相生町向の片町よ參

前舎を建く溝修の事と成道二冠乃作といふ書教を篇祥は後く世より

参り合ふ今相續と ○五月十九日夜九時の分大雨雹交る ○赤川河橋の後

塩濱松平皇則度所下郎と成る ○六月加茂縣主赤子齋 佃島住吉の社

方一碑を立す 始ふ赤林のより勅法之事を述べて次ふ去元禄七年川上正若信林大坂登伊三

船よりいふあり一めむぬよおせむ勅あり控を定めその洋中のありしは川橋のまふりあり

せと正保の以氏子ともふりて海社をわらそに役せられたりまことなりて未ふ可あり

櫻木の山登修りより終りしつて中ゆむいさど一持これ

○醫學館日講始る ○隈町河原あり駝馬を見せむといふ 是く又ある者も小石を

も食ひ ○八月六日大雨雨小田原辺より江戸迄海辺を潮上る ○町火消纏帳箱を

改白漆塗とある ○八月十七日麻布幸村氷川町林多乳牛一絲物未出 休

○八月廿日暑暑より雲出海鳴り暑より大風雨雨七時止む

○九月四日大嵐時夜中より大雨南風烈く八月より強一已刻より激流川

河崎一漲りて河を急せり入船町久右衛門町を丁目と唱下 吉祥寺

門あり建つるもの町家住居の人救とたふ一町小海一流きて水方を知るは

舟又天社損ト拜殿別當不足外流失せしるの浪乃徳船橋塩濱一田り

つれ民家流失は外流方家屋吹損一川より溢る晝時ふりり潮引く関

東筋止る洪水ゆり 謹ふ言蟹陸へき遠より津波の 海傍の地屋后高浪の委

計りがしと西の八船町限東の右祥寺門ありなる連九長式百八十五万餘の

家屋を取そむ畠地より一並る 此内西のく入船町の 諸江氏基基裁行場とあり

○九月十三日俳人真秋彦

式正二年表卷之七

白旗卒 平之才品川  
防暴者小暮

○九月廿七日儒師松田拙斎卒 名長茶麻布  
又生る以暮

○神田明神祭祓禊年々より所産あり申し始り 享和より輕業あり後文化  
年中より漸り小なる

三組と成る 年産の勤心一雨より一雨の出さる一雨  
後年産小超えて雨の頭株物豊物を出

○十二月九日回向院へ命せられ永代

ちふおいそ 所産流死の者能儀鬼修乃り ○十二月十四日十五日神田社年の市  
後年産小超えて雨の頭株物豊物を出

○十二月□日下谷火事 深川側傍名物の花をば九月に枝の  
後年産小超えて雨の頭株物豊物を出

寛政四年壬子 二月間

二月初午の日笠日以谷稻着桑波産子町より出し練物を出 ○二月七日

麴町火事 ○壬二月六日詩人安達文仲卒  
名僧号法海三の痛  
志正も小暮

○四月の以り米價

堂揚走 ○五月十四日新井白蛾卒  
平之才品川  
易歩小名あり

○護國寺にて秋又二十四番

親世音閑帳 ○六月十音山五所系礼附系三組と成る  
林田小同トされ此産多  
本村町外武下より出さるし  
これなり

○六月餅鳥居安側一町舎所親花を建てる是迄の火的場あり

○六月十八日亥刻光物西南より東山へ飛火さき笠のぶと ○七月廿一日飛火

梅屋敷の梅舊根焼失 江戸砂子書入といふ幕府あり

○七月廿一日南大風已上刻麻布并檜より出火神土今井谷赤坂青山比谷

會遠麴町番町飯田町小石川所門小川町三傍稲着の社辺延焼亡 此後

番町麴町の裏より火除け地出 以時進番町小文正  
年中の家作も此とぞ

○牛込林末坂通西側ハ山下

何某の邸小あり後又以後後家改まり ○八月十二日画人松林山人卒  
名之を以

○西本願寺所堂再建 能明和山構中より寄進者若三十二人六六八人多列の  
及々を指束是代より小建り物に建方之といひ所  
堂間口十八万五千石なり

○谷中感應寺 ○十二月九日燒る

○十一月七日儒師千葉若閣卒 名之を以  
千本木能深ら小暮

○十二月八日

○十二月十八日下総八幡宮社内塔の古樹を掘穿る小古鏡をえりて三尺  
深り三尺二寸元亨元年酉十二月十七日別当和山と彫る

寛政五年癸丑

正月関東地震○麹町若菜寺去年火除の為地を石とされ神樂坂小代地を  
あつりけるが今年二月普濟成就して廿七日毘沙門天<sup>せんざ</sup>遷座あり○二月浅草寺  
奥山ふらふび様救株を栽る○三月六日より茅場町茶師境内を房州<sup>かみ</sup>鏡  
が浦西行寺西行法師像開帳○栴揚神明宮内天満宮開帳○五月より  
九月中を江戸霖雨<sup>あめあ</sup>大川出水○五月廿日書家荒木吳江<sup>ごかう</sup>卒  
号平水丸山  
長妻小菰氏  
○九月先達て魯西亞<sup>おろーや</sup>漂流して帰朝せし伊勢白子の<sup>せんざう</sup>新改幸太史磯吉江  
戸<sup>へ</sup>一<sup>へ</sup>来り  
天の二年十二月強風の時を強風小遠は漂流せしといふ磯吉は今年廿八日一か内船の後  
程よく死にり重太史は今年十二月飯田町の沖某園にありて後長妻と保りといふ  
○十月廿五日湯島松平雲外庵以別館より出火祚田急本町石町堺町

幕府町芝居日本橋辺迄焼す○十二月柳屋土手下町急の内須田町  
二丁目小柳町平永町小北側を取拂りて外祚田小代地を賜り明地<sup>あけち</sup>中  
成後小親藏を建らる  
町令所親藏の  
速地あり  
○月日儒師原敬仲卒  
名恭胤雙柱の二  
男あり又雙柱名ハ  
榑号尚庵昭和四年九月廿日卒しとも小約巡吉祥と申  
們泉も小菰氏小菰世一教くふまらる

同六年甲寅 十一月日

正月十日末中刺殺町五丁目秋田屋何某といふ酒屋より出火烈風りて  
山五所社水田馬場霞が空虎河川外様田邊松彦藩邸救字新焼幸橋  
河門焼を宿下日蔭町新橋芝<sup>せんざん</sup>新橋屋仙臺會津家小一田焼亡せり  
○正月昔佛人金羅<sup>きんら</sup>卒  
号藤正堂  
小菰氏  
○二月廿八日儒師吉田不<sup>しんざう</sup>方卒  
根  
○三月章橋河門外兼房町和泉町飯沼町侍町伏見町若右  
衛門町久保町左左町町小の内火除の為町家を取拂ひ<sup>ちい</sup>賜地とせしれ

當時の所を以て武家地と在りて外へ移されては所一代地とあり

○川口善光寺如來開帳 糸清羣集えいせいぐんしゅう七川口の渡一和震わかつくり怪家けいけ人多あり

○四月二日亥半刻古原江戸町武丁同より出火一廓焼亡仮定田町聖文町山の者 瓦町あべあり

○四月十七日青山梅窓院主蕃山和尙寂詩及びひら 四月廿七日儒師菅

野子徳卒名義直彦山 六月十日儒師街里里卒清葉りやで 八月十九日

國学者林浦島卒林和助号林居士備後院又華以 秋葉町之橋溝口内匠製

造りて橋杭くわいをくくして杖つゝを巧うまくあり文化よありてえの 十月晦日舟人伊藤松

軒卒号倚松庵青山 十一月三日子刻大地震おと 十一月四日象刻藏六居

士卒号新屋山 十二月廿九日狩野永徳高信卒辛寅深川 江戸地誌

号巡拝所あまのと定むほつちの橋の 四社地名探字あ成古に新黄薇山人編輯

○出羽園より大童山文太郎出十一才肥満いまんと廿二歳同より角力を取とりて年

長とて弱くあれり ○當道大記編成 字を一再一ツ目五又天社後 浮島源流著

寛政七年乙卯

正月九日谷風あかぜ松まつ之助終江戸才也仙臺一葉以て終る 正月十日西小大風市谷折丁

より出火野焼多り 二月十三日書家細井竹園卒名庸稱次郎を志八十才あり

○三月十八日より六日淡草あはる親世音開帳風雷祈門再建さいけん成三月十日二社

を安やす座あ以い ○六月七日儒師清水江東卒卒すや下谷の高家大坂屋 六月十五日

夜大雷廿六ふ不ふ一落おると云い ○七月八日儒師市川雀鳴卒名匡稱多門を年七十

○七月十三日星月ほしづき七貫つねくく ○八月七日梅柳軒重明卒西澤光昭を小葉以

師の門人ありて和方わ名あり寿七十三松依田ま水といふ上州

谷中や天あままちち申ま申ま了り了り候まりま候まりま 八月十日儒師三浦瓶山卒名衛良稱左兵衛中野の

出い練物れんぶつありと云い ○九月十日儒師三浦瓶山卒徳吉を小葉以男を長山といふ

○秋凶化米穀價登揚あり ○九月廿一日青山久保町熊野くまの権現けんげん祭まつり産子

町より出、絲物を出せ ○十月十日太田大洲卒

七十才名徳元本新大徳の似集  
本まわりの人あり

寛政八年丙辰

正月白牛路（白牛）養弘の事を令しめ

享保中房州嶺岡白牛を放養せしめて白牛路  
製法を令せしむるに僅小三頭ありしが以て代は  
て七十餘頭ありしに依て授斛の乾路を製せしめて  
養く世人を救ひしに 沖恩澤ありしに

○二月谷中感應寺毘沙門天開帳 ○夏先口新田明神奉帳 ○芝泉岳寺

釈迦八相曼荼羅開帳 義士の遺物を乞せしむ ○四月十二日狂哥師兼揚菴

光平 （梅若守吉備門前） ○六月九日多越明神系礼神樂を演じ出、絲りの

糸 （梅若守吉備門前） ○六月十日書家澤田東江卒 六十才保鱗一号出島  
山人松文二弟といふ事

○九月本所小古初次立不建つ ○十月四日松軒齋名貞雄君卒

八十一才古実者といひて地理の古編集あり  
は谷戒行も小纂あり ○十一月琉球人來傳 正使又直見王子

副使安村親方 （柴野彦柳琉球令  
草治務答あり） ○十二月六日儒師黒沢維岡卒 名萬新 松右仲  
八十四才

同 九年丁巳 七月望

二月廿八日特野洞春卒 （名長信上世  
後水院小纂） ○春三田魚籃觀世寺再帳 ○水谷江

の島舟才矢開帳江戸より諸人より ○四月廿七日画人三輪花信齋卒 （名ハ  
後水院小纂）

後を以て殊小とあり河傍の卒らも舟を馬き （後水院小纂） ○後水院養寺庭中の蓮花

牡丹芍薬小舟へ咲くは物群集せり ○六月三日狂分師兼不戯作若者の

唐丸卒 （書齋三弟と云給る紙あり  
山谷正法も小纂あり） ○橘の異名を弄ぶ事流乃 （橘品番端品類考果  
系を辨けり）

○七月六日大雷雨小落つ ○七月十日中村佛庵景連 （中村村録を以て  
書と名くす）

そけ子宗錫を伴ひ流落する觀世寺（清）の船中火川の辺にありし以水函小

矢筒宮の本像を均て京和元年深川法禪寺に安置し （旭天徳宮  
と記あり） ○七月廿日

吉実若真野是為卒 （名安通孫七郎といふ  
翻町に居り小纂あり） ○十月町火消人豆の内始二百七十四

人の頭取を令せしむ ○十月廿二日若堂家茂後郎向佐久野町の火あや



より出火某所城の辺より大川を越深川と号す八名川町へ飛海辺新日本  
場遠焼亡○十一月廿二日武留古実若林系香山卒 名長俊格一学各節天喜中  
了院ら小華氏

○十二月十八日醫師宇田川玄隨卒 名清号樞閣抄巻別巻中  
玄院は華男を玄真と云 ○十二月廿日他人

妍富津富卒 年七十九戸  
其妻若小華 ○東海道名新圖會六冊梓行 株里羅高著  
名家合画

○和漢年契一卷梓行 坊別の人高廻著之本小本二冊あり又寛政十二年坊丹の  
人小く惠光子編和漢年代要二巻と梓行す

寛政十年戊午

改曆頒行寛政曆と号○二月十九日俳人小菅宝馬卒 一日ふふ身終り  
年堂と号七十九

○四月金彫工大森英秀卒 年九十九  
号海城 ○五月朔日石川沖より縣

上より長九郎を天宮と号す大餘あり 此以何日もの中号あり名福如來る小園結あり  
所境内の上小瓦菴を以て大佛の像を造り相由

○六月廿二日画人梅里山人卒 名園所五師あり  
中の名政経も小華氏 ○七月より深川新大橋

の向小粉花を建てる此所の所家半辺音町の辺より代地をりあふ  
今の半辺音戸町之○九月一日儒師若田曾職卒 年八十八  
号中火燈も小  
華氏

○九月十日将野永賢春信卒 年八十八  
号彼月巻  
西つた小華氏

○十月廿九日初夜より以下り星を多く巻んく夜をさうりふをうて空の氣

毛一面小雲の捲るう如く見え下り之○十一月三日金星の捲るうその如く

○儒師岳麻谷卒 名之浩稱若小華氏  
年七十九月日不詳 ○十二月十日狂言師末樂常河卒 年六十二  
株山橋

○十二月十日狂言師末樂常河卒 年六十二  
株山橋

同十一年己未

正月廿九日之河町をうりより出火神田辺町極焼亡此後鎌倉河岸

町極々十間通り鎌下びあ成る同不河岸此還廣がる○二月十五日三圍稻

新開地 奉納造り物ありたり日幸格白木極より又喜成りて流る牛馬本賣の味偶を  
叔父同地の時物ふををつくは始ありと系清華集をるりおびく

○聖堂河再建境内廣うて大度落以 ○湯島風閣湯島山修驗 青山

久保町橋湯島ふりし龜有町糺町一代地をめぐりしも此時あり

○三月後行者千百年忌勅して祓禊之井の号せ揚る ○靈岸島埋立

地小賑夫地産物令新建 夏寺修村法泉寺 勅を勅之園

○五月四日より谷束村徳間 長命寺秋吉野 尚讓木の福人の面小影中

見物多し ○七月六日夜大雷子刻方大雹降 ○六月十九日儒師佐久

文示卒 名維章 善山 ○八月青山海鏡も檀家和泉孫持右衛門の家

小比丘尼何り刑罰の首級六百を給く當寺小善供養の塔を建る

○十一月十九日夜比ツ時より大雨大雷おろす一落る

寛政十二年庚申 四月閏

正月廿六日夜谷中やちういろは茶屋より出火近邊寺院多く焼る

○二月廿三日亥半刻回圃えんが 龍泉寺町より出火吉原京町飛廓中 燒亡後宅

聖天町山之宿秘所 ○七月朔日より護國寺小 後父ちよぶ 三十四番觀世音園徳

○四月廿九日關其寧卒 六十八才 孫孫孫孫孫孫の養子 ○閏四月七日俳人山内

花縣卒 六十五才 妻秋秋と号 ○五月十一日官儒服部栗秋卒 五十五才 名保會

○銀座常是報應町より蛸壳町カマクラ 移る ○九月十三日唄うこい湖こい 出市十郎

死 谷中妙禱 ○十月六日金雕二 菊岡氏祖光仍卒 卒 ○月廿音書家依久乃 東川

卒 名後之卒不 ○十二月廿七日書家稻系華溪卒 五十九才 孫孫 ○江戸世古圖貌成

方長著 ○今年富士山女人の来訪あり ○浮世繪類考成写本一卷 山内

著毎や邦教追考ありしを以て或る三入の卒を以て漢世英泉増補して三巻に成す  
浮世繪の大伴又英英一葉宮川長泰が先祖とす江戸の名人多し又天明寛政の以り  
剛人刷人の上巻より巧をそし次才小英藤の抄出来て方拙の身一とありし徳正乃の抄あり  
まども江戸小及なり

此年間記事

武江年表卷之七

毎月晦日上野為之師遷座の時系指羣集以了幸寛政の以り始り  
 此時代名家△儒家山本北山龜田鵬齋・細井平洲・服部栗秋・柴野栗山  
 古賀精里・杉井白蛾易術△画家高宮若谷・谷文晁・董九如・長谷川雪嶺  
 鈴木芙蓉・森蒙斎△狂哥師・唐衣橋洲尚左堂俊満・尚左堂俊満又傳世倫・狂言堂  
 真秋・六樹園阪盛・蜀山人・芍薬亭長根△浮世繪師・為文齋・榮之  
 勝川春好・日喜英九植・東洲寫樂・森多川哥磨・北尾重政・同  
 改演京傳・同改美・蘆俊満尚左堂と号・葛飾北秋狂言の格物讀本・哥  
 妓堂・鏡鏡・榮秋・森田・榮佳・舟春童・田中益信・古川三際・櫻等琳  
 金長・まごく狂言或名弘の格物小刷工の巧をつと花簾を極する事以  
 時代より盛なり○夷尾庵の我衣小榮・學醫の始祖とせらる中川須菴志休  
 子一が果さば生後奥平度の侍医前野良澤号榮化・小半ひらりり中門

人・松田元伯・宇田川玄隨・桂川甫周・大槻玄澤・あつらひ大ふ若公一々  
 此道なれりといふ○淺草寺隨才門前の茶居・經波屋のおきだ茶研極門高  
 島のおひさ・芝林・明芳・月兼・本のおえんこの三人・英女の宮えりて隠居せり  
 老は居ふ憩ふ人引もきび○吉原扇屋の若妓・花麻老母・孝人の宮えりり兼船  
 の清人・費晴・湖傍・湯ふありてその孝娼妓が事とすこれを賛へる詩あり  
 曲亭の意雜の祀ふ載り○婦女のたがさううまびそ中り始む迎幸中始り  
 ○堆茶・深衣・款乃るる○鞘画の裁き乃るる○いつの以り始り一々西が東  
 小湯島の牡丹屋・太右衛門が別荘ありて花櫃ふ紅白の牡丹・英やゆきふ  
 盛の以貴・綾・羣集せり文化の始ふ○酒樓は於て書画會を催はる事以  
 始り近以名前の名家書畫不書画會へ寛政の以謀念の○兎非堂の玩ふ切り組燈  
 籠・餘り上方りの物へ支取始り・系の生洲・大坂のては祭の圖杯を重板せり

寛政享和の以菱每政美多く画き又此舟由續ひて画りり文化ふいりり  
 奇川國本豊久以伎小工風をては教多く画き出せりを捧今よりりり  
 年々樹出せり○人物を戦山水を竹葉象を四角を画くの哉と行りり  
 書翰角を彩を括りり  
 商人より寛政の事より始り  
 ○寛政十一年の春より王子村料理屋海老や扇屋に  
 せりりあり○  
 是れ低のる寛政宝曆の以多く右の合戦武功の次才或歌討宗の歌をてて童鬼の  
 哉既ありりて和安永の以より世上風俗の淑慝男女の情態をのる編輯多此其中  
 へ世より初雅のむかひ人専ら是を弄びて功徳を論し清日の清と多小をて寛政よりこの山東未傳  
 是を二巻やめ勸懲を旨とて多く他よりその内善惡をのさす一珠小はれりり

享和元年辛酉 二月五日改元

正月十日能人椽茶菴平山梅人卒 大久保泉福 ち小葬儀 ○正月十八日画人小山寒巖  
 卒 名孟照 楊坊 法深ち小葬儀 ○二月二日茶人千柄菊且卒 西河表町の坊あり 你川法禪ち中納院小葬儀 ○二月十七日一乃  
 流劍術師中西忠太卒 根岸若性ち小葬儀 又傳碑文小記せり ○三月十八日より十五日の若浅  
 草子親世奇閑帳○龜戸天海宮閑帳○目黒不動寺閑帳○四月より

深川法禪寺よて武州熊谷寺孫院如來蓮生像小閑帳○五月四日大雷不

三蔵○五月十日日官医多紀永壽院元徳卒 七十六名元真号藍暖 平塚城官ち小葬儀

○六月十日板橋宿板橋水車の下より奇魚を獲りり老五尺一寸横二尺

寸四厘あり僅小三寸餘巨口微月形と熱身色粟のこころと黒斑あり

○六月十六日より回向院よて孫家法深ち新述如來閑帳○六月廿九日儒

師細井平剛卒 平賀名種氏号如來林葛と号 法深ち所又岳院小葬儀 ○九月十八日画人蘭秋森文祥

卒 小越の人法草本於ち中納院ち小葬儀 男を蘭曉文臣と云醫師あり ○九月十八日金雕工若本昆寛卒 ちんちりり 五十八才 孫若本

○孝義緑卒巻板仍 学問所所板仍 ○十月十九日夜元服田町焼亡

○十一月廿五日夜神田蠟燭町より火大十四町焼焼す

同 二年壬戌

二月廿五日菱神九百年所忌○糺町平河天海宮閑帳○二月廿八日より柏木



淡草寺中梅園院之相馬大山麓林泉寺子安親世寺園地 ○六月朔日より  
日向院之精舎光明寺雷雷親世寺園地 ○同日より淡草寺信院より信州  
善光寺如來園地 ○月十日より廿日の月本所一目辨才天園地

○六月十一日八学若中澤道二年 七十九才深川後江  
妙善寺中妻以 ○六月廿九日園学若大塚

嘉樹亭 松平右衛門号茶楼七十三才  
淡草本妻若小妻以 ○詩人水原九琴亭 八十三才名伴具持才六  
美濃中老若院小妻以

○七月高嵩溪信宜親之翁の圖を画く淡草親善堂の外障小掲く

○七月朔日より淡草寺中金義院之相馬大園寺新迹如來園地

○同日より永代寺之常陸國河波大杉大明神園地 ○七月より赤草

より水戸磐船新入寺如信上人像園地宝物多し ○七月朔日より淡草

寺内正福院之越後頸城郡尾美社大園之五像園地 宗居菴日の丸の  
名号を掲せしむ

○八月折原堤の例小細藏を建らふ ○八月谷中延命院住持日道傍律

や能一巖科小庵せりしとすえり ○十月朔日伊豆大島焼二日の戸中

天降 ○十二月挿花の師益翁亦乱を卒 八十八才翌年七月門人淡草若山(碑せり  
子若大人の文あり

○後の昔物活成写本更 てふのありち西京後江のぬしとて  
送らる淡草之室曆若菜の風俗をまう ○今年二月中旬より

淡草園圃立花廣所下藩誌書大郎指荷社利生何とありしは江戶

最近在の老若系清若集はるる暇 清若系集はるる後  
朔日十番廿日午の日開門之 聖文化元年小

いり糸藝易一奉納物山の如く道路より酒肆茶店を別て掲ひしが一二

年ありしと自茲止しとす 年時の草紙一枚繪小唄の草何月ありし文化元年抱一上人  
画念の時『繪せむらひ』をいふも大郎の自筆の原稿とす

○群書類從板初六百三十六卷 掲檢校輯系板あり  
此節より進み上本成

此年間の記事

小金井村の櫻寛政の以り録る人もありし由古松軒が四林地名録に記  
しりしが享和の以り騷人筆客多し集しり毎集遊覧の如とあり

長巻の冊子一枚  
多く刊行せり

三つ流るる己の河系うさく花の雲中や水のひらきあり 千夜

○せんりや 藤原家伝曲馬琴が漢本双帝乃れて白く

救篇を捧行す又系史板より画入漢本新化何も捧行して江戸下せり

は條江戸戯作者の式亭三馬六物園版盛小枝の教（絳山翁又と云ふ） 感和亭泉武

十返舎一九振響亭 漢海樓馬馬高井崇山 山東京山 （百樹） 若葉亭長根

柳多種考 梅暮里谷藏 神屋蓬州 南仙笑楚滿人 東里山人 東西葦

南北（之） 外多（京大板作者の要致多鬼卵合浦免月優々彼柳浪文磨木の編匠）

合川派和松好麻守玄清 河川考秀 速水其院 秋未平柳考あり 喜院 秋未平画入り

仕組むる乃 江戸浮世繪師の葛飾北秋辰改 （始春頭宗理群る多） 秋川豊園

公豊廣 蹄秋小馬 雷剛 （葉画を） 盈秋北谷 閑々樓小嵩 （後柳） 小書 （傳）

葵園北溪 ○北尾憲 秋畧画式と号し 浮世繪の畧画を工せし 粉色摺

の粉本 摺篇を捧行す ○浮世繪師二代 珍来 春信といひし 其の長崎小島り

蘭画を学以後江戸小島り世より名を司馬江漢と改む 又銅板を日本

小書創せるも此人の功也 （○此は連山水の遠景を画す一枚繪也） ○享和山東京傳の編る

近世奇祿考 骨董集 二部の隨筆世に於てより此評裁よありし

戯作者各隨筆を何れも其事始より掩れとも系傳の作小並ふり其あり

野鄙ありの多し ○原舟月雛人形の製を改て古今雛と名づけ世より

もくろり ○享和中みやね市人葉嶋といふ人寺島村小巻園を設け四時

の花を裁く遊賞の所とせり奥州の人より （結小平） 江戸小島り世に於て

天保の始終あり （兼嶋始或人名つけて掃堂といふ文字をいそく改りたりは梅雲を）

其の奇あり （初） ねも引るをもはるくを今より其ははるくはるくあり 小書





中一巻上聖日死骸  
江戸川より上家  
○八月四日能人素健卒 二十六年江戸  
去信ちお葬

○八月廿三日画人高嵩  
中一才徳徳を好一有人の徳家  
奇人徳の編あ谷中長久院の葬

○八月廿五日玄々一年  
七十五才名一雄号房徳  
淡草初福寺の葬

○八月廿二日画工佐照寄雲卒  
名貫多称倉次号中岳堂淡草  
世系中称名院小葬以女七英之

○今年徳国考熱之  
号とも小画  
とよく以

文化二年乙丑 八月間

二月十五日より根津権現堂北十二面観世音関帳○三月八日より谷中一

宗寺祖師関帳○同日より飛戸香取社境内ありて京於西鴨清涼山金

毘羅権現関帳○八月十二日より回向院ありて青山若光寺如東関帳

○八月廿二日より氷代寺ありて玉川明神関帳○八月廿八日より飛戸東覚寺不動

寺関帳○二月芝神宮境内ありて勅進南力ありし時八月十六日自具行

日水引といふ南力取給の若と喧嘩不及い四ッ車一人加勢一と大勢とわち

あり関帳中あり○三月中旬より芝居棧ありて出丸の女あり

芝居主とこれを告兆とて祝ふと云○四月朔日南河川海雲と千解荒神

関帳○五月能師神田菴小知西國橋畔の柏戸ありて八十八齡の賀逆を憐く

仙ハ沈瀧朝霞の氣を吸く長壽一我ら

有 雲や吾菴ひの生と花 小知

○六月七月あり○六月十九日生長村廻の川若徳ありし時人骨

ありて骸一是古戦場の衣ありと云  の菩提ありて枯骨と

淡草華籠と一収め墓を築く事詔成徳と云と云して七月より

系備群集なる事歎く 三月よりありて  
系備自ら止り ○八月七日篆刻家島蒙祥卒 卒不伝  
島蒙

○八月廿七日儒師神谷東溪卒 名謙松徳六  
田浦寺葬と云事 ○十月十七日書画淡草



令せらるる○四月朔日儒師古屋昔陽卒名高祿十二并七十三

○辯秀堂何某弁丈天を信ト金光明最勝王經を書写し清浄の地

納んとく上二慈さを求ふそととて亀の形一方ををぬり

堅二天江の務一を納以○四月廿八日算術師小川秀藏算員卒中野盛

○七月大師の系弘法大師開帳○十一月琉球人來聘二夜續谷三不

副使琉球人比嘉親雲上十二月二日終れり年閩東二之寒寒三烈一く雲

此親上老年在終り一といふ言極○十一月十三日夜五時尊屋町河原かつし師

大田も一幕送の時いとあるまふとはこと○十一月十三日夜五時尊屋町河原友九郎

のより山火くて場所よう町大坂町志左参の町難波町飯売町追燒る

ありか近以深○今年米穀豐饒と價下落とよつて十月市中分限小應下て

買金を令せらる○十一月十三日名利通半迎糸町○十月の以上菅原河舟書

○十一月十四日儒師崎允明卒号終園林十六丈○十月の以上菅原河舟書

画展覧の會を催し意款を添一移く鑒定を小低小記一筒ふこあて

後小初○江戸圖副說写本成大橋方長著

文化四年丁卯

二月十四日明六歳の東より為一光物飛六○春雨少く契風の日多く不

火る乃○二月廿八日より回向院を幸手不執院不執号閑帳廿二日江戸到志の

の威勢錫杖法課の敷をお茶驅を幸九千人計り次小山伏救十人境中條機を二形一列

以次小大の芥を搦る山伏廿人計り法課を吹く流小山伏八九人厨子林室を若せ其形は位

威勢小大の伊達乃く打拍を持せ供身の山伏大勢中の異形の出立すも何り近來是程

号一矢末の内小火を起一山伏大勢契火の上を志且とて激り仍弟代弟の身と見物

群集一境内混雜一と怪象人百何り程を以事と止れらうと事

二月四日  
芝二丁目  
より出火  
脇坂炭  
河原炭  
新橋  
この時  
町火消  
の大喧  
嘩あり



層とありし九子五百人階といふは時を知らず江戸中一呼えて名物小少なる  
 家族の若ん大男ありて新大橋の通路止りてあ國橋を渡り途ひよ出る  
 りの昼夜引も切らば 官府より厚く命をくれり水中死骸を引揚り  
 め男女老少を分けて大橋小橋並りてを家族為りてありてあくく野鳥  
 送りてあはれ慈傷のこぬ目も何てくれぬ事ともありしとぞ 獨死の家族ある  
 へは殺の物ありし  
この時類米麦の浮揚といつ  
 星紙小妻くれせりとあむ  
 ○八月廿二日 九月時過井橋辺古松大枝折る  
 ○八月氷川明神本社造管より年何とさるふ崩りり ○此以西の方ふ常  
 星ある ○帳夷地變動あり ○一石橋の橋杭嫩木の樺ありしが一面ふ芽を  
 あき稚差あてた ○九月三日酉の刻小東より南へ光り物差ふ大井鞠仕  
 めく青とあり ○九月十五日村田明神奉祀所産桑より河町二丁目二丁目  
 より子供お撲せ出り ○九月廿一日青山慈野院現桑礼出り縁物あり

正徳後休む ○十月四日茶人川上白卒

九十三才号孤峯又田根社始不羨と云子の  
 如心舟の門人中古千家茶院の開基あり

谷中屋五子少桑以墓不へ天明元年生あふ管むおん中央ふ石焼菴をを大袋小妙法と鶴  
 石像を造りぬの  
 石像を造りぬの  
 石像を造りぬの  
 ○十一月高橋海上あて蓋葬と云海獣をぬり

○十二月一日官儒柴野栗山卒 七十一才格夫補号吉忠  
 大塚以麻島小葬以 ○月十六日儒師萩生鳳

鳴卒 名天祐称惠右衛門  
 三回名ねる小葬以 ○十二月晦日夜永田馬場火事

文化五年戊辰 六月間

正月九日十日大雪降五十年來の雪といふ雨も折折ある ○月廿二日画人竹

養溪卒 名惟房信  
 年幾も小葬以 ○二月朔日夜大雷 ○二月十三日狩野養川院惟信

卒 六十  
 六十一 ○三月十七日より市谷新町光徳院親世音閣焼 又文化七年午の  
 四月にも閣焼あり

○奉新寺佛子鬼子母神閣焼 ○三月七日画人内田陶丘卒 玄對の男あり  
 廣尾光林も小葬以

○日墓里小位日野資枝の所寄の碑を建つ 今年の凶縁之常舟水産産印戸你川安宅の住人  
 保延貞といふ人建つあり

未あつ日くすの里の花の以て穢穢集りて住糸を賞さす一或のふあともくふ  
あれはねを嘆そふ花の帝とひくくふ日くすの里とあふそふ

○四月九日倭人松露庵を辟<sup>しん</sup>年<sup>ねん</sup> 徳川氏大権 光徳院小葬 ○五月十日より儀堂大徳を以て徳会

妙隆を祖師開帳 ○六月物旬より雨勢く降り十六日より十八日連江戸

及近國洪水溢る米穀價さし ○六月貧民に正救米法せり一賜ふ

○閏六月朔日日向院を葛西守田福為開帳 ○閏六月二日俳優尾

上松緑<sup>ろく</sup> 日向院を於て昔の俳優小をこ小平次が幽魂を吊ふ以て施<sup>せ</sup>徳<sup>とく</sup>

を修せむ人々群集はるる野駭<sup>やかい</sup>ありて後彼を率て狂言を取組身行

ける不見物山をあやしくとすうぬ事ありく久崇あくる事をと忍れく其

后へのくさふふ其名を喝く此れをを僅はるるあり ○壬六月十八日より

廿日連大雨降再洪水溢る ○七月日向院を野州那須野光昭と玉藻

社開帳 ○七月廿一夜小入雷少一鳴曇六時大雷雨を傾うが如

○七月廿五日昼九ツ時より南大風雨家屋を損下怪家人多く豆船楫船

七十餘艘覆り又酒船入陣絶て市中酒あり ○八月日向院を於て昨年

永代橋水死の祟一周忌法事修む ○八月小いりても雨勢く降り七日

八日大雨江戸法園洪水溢る ○九月二日加藤子蔭大人卒 壬午年本日向院 小葬儀

○十月芝金杉山珠を七面大明神再帳 ○十月四日この日浴湯をこれバ壽

を減トス即死するよりして半銭入湯する事あり元文元年の以かふる

事ありくぞ ○十月十日書家細井錦城卒 名知権孫松右衛門廣澤の孫あり 寺より村泊りて小葬儀

○十二月十九日書家服田赤峰卒 名順孫御右衛門 服田のうりふくこといふ物 麻布園林ち小葬儀

文化六年己巳

正月元日大風雪六時左内所より吹雪して万町四日市小畑所照降所

新找木町堺所葺坐所為座芝居難波町方砂町元濱町辺武家方丈  
 たり為園茶研垣矣の舎添不いり飛火して本町表町辺焼亡一夜九  
 半時終る○正月雨降る日刻風吹て火事なかり○二月永代橋  
 新大橋大川橋交員人止る菱垣也船積仲間引交不成り流船止む  
 ○二月廿九日半辺火消登後より空雷町の系追焼亡武家方多焼る  
 ○二月十日小日多里妙隆寺祖師再修○四月より仍徳徳願寺孫院如來  
 開帳○三月廿四日約辺田宗寺にて八百石七ヶ百廿七回忌法事あり  
細雨降り  
りねと系  
 清羣集夥一為葺ぬ  
の葺儀告する所といふ  
 ○四月二日儒師伴東藍田卒  
名毎年林金藤七十八才約辺  
吉祥中洞系も小葺り男を  
教龜岳といふ  
 ○四月より七月迄江の島本宮岩屋兼才天開帳あり江戸より  
 系諸夥一江戸でもあり兼才天開帳あり○五月六日儒師泉豊洲卒  
五十二才林芥太郎名老道  
後孝光も小葺り  
 ○六月六日より日向院より常州真登那船出祈

開帳○六月廿一日官医桂川南周卒  
五十六才名國瑞号月能老人  
二本板上約も小葺り  
オウラウイ  
 兼加在久場村と院邊の和一本橋より花多々咲り江戸不見物人多り  
 ○七月坊場村の宮の内にて武州所嶽山家麻○七月十九日より本所  
 本佛も亦て甲州石和遠妙と祖師開帳○七月深川宜雲と小英一  
つとひ  
 蝶の草塚を築碑を立る  
市野光彦文を撰一英一珪とれを建  
これ一蝶寓居の所といふあり  
 ○八月廿二日夜  
 亥の刻より廿四日迄大風雨家屋を損る事夥く火の足の中鐘を吹落り  
 伊豆房徳漁人多く溺死○八月卜者成回朝辰鈴々森八幡宮境内  
 小狸塚を築く○今年諸國豊化○九月朔日より二十日の名牛込岩  
 戸町南義院兼才天開帳○浅草報恩寺因系所向より今の所へ移る  
 此所本所との地所廣がる○九月五日詩人谷林鹿谷卒  
八十一才名本備祿十  
次即西人文魁の父也  
 浅草深空  
 ○九月五日儒師篠木竹堂卒  
名藤林久二師  
四谷市古所榮林も小葺り

○潤布日記三卷字本成

右田幸直先生公用年々  
武川の辺に歴ありし時の紀行

○十一月二日大雪十二月近解次

文化七年 庚午

正月廿日より浅草大仏よりあき佐渡塚系根幸より祖師園懐○同廿七日物有家

小野蘭山卒

八十有年三十七天氏公孫有内  
浅草寺に葬す小茶氏

○二月廿日より川口善光寺如来園懐

○二月廿五日より平河天満宮園懐○三月七日より田向院より越後園下家より

七日如来園懐○同十日より浅草玉泉寺より藤倉松葉谷長持より祖師園懐

○同十五日石原徳水条才天園懐

同十三日より十九日近浅草唯念寺より同廿日同廿七日同  
溜池唯念寺より四月朔日より七日近浅草唯念寺より

下野高田山如来園懐○三月廿日以後不形是より澤瑞精持竹本位太丈死

某院より○四月朔日より浅草柳橋新形社園懐○同八日より深川澤山より新

曾妙形寺祖師釈迦如来園懐曼荼羅を拜せり○五月十一日狂歌師萩野

屋裏位卒 七年七月金吹所より行所大座の表位といふ堂上あり  
藤原の号とありしより深川法禅より不葬あり ○六月十五日より田向院より

嵯峨清凉寺釋迦如来園懐今年八例より系請多し○六月廿二日廿四日白

金覺持よりあき清正公二百年忌信養園懐○八月朔日より護國寺より信

明庵光寺村元若光寺如来園懐 別當  
所光より ○九月十九日加右遠塵母卒 七十七有この  
翁ハ瑞理玉

蕨のつんあき丹青と若一作文を以て佛像を画する人之服形故終身を不寛政八年成就し一五  
百歳漢末の像五十餘幅あり大典禪師とれを賞し七他かれ一文あり尚書不務為之

○十一月十六日東本願寺御堂再建上棟の式あり 文化三年災後五年自あて成終せり  
今日高請の男女未明より羣集し

供物飾物水用と警うた斗りあり  
栴梁と石塚志磨といふ ○此冬マゴロの魚漢ある事夥し総豆ねの三初より

一日ふ一万本と獲るといふ○十一月十七日儒師諸葛琴臺卒 名盡号鬘髮  
下谷養玉院より葬り

同 八年 辛未 二月間

舊冬よりあきより正月十日大雪十七日大雪○正月廿四日雪四半時より

浅草茅町二丁目裏より出火表通りより火災裏河家折橋万八樓連焼九三

町ふ一町程あり早妻度くはるなり○二月十日颯風申刻市谷谷町念佛坂



よりお坐四谷赤坂麻布西窪飯倉赤羽坊上寺支院三石焼亡以以災下何下

て死亡の者二百餘人と云々○二月十三日村田春海卒六十六才錦織史一本琴後為終平四節と云國學不長一和宮也

よく以筆書一覽云寛平中の新撰字鏡を購ひ小藤以○二月廿八日より牛沼前王子権現世弘方の書法が賜へ云々

開帳○同日十日八根津社内親世吉開帳○十八日より護国寺山内三石焼亡以以災下何下

秩父北不親世吉開帳尾崎○同晦日より牛島長命寺新才天開帳

○三月十一日より池の妙音寺以て強乃若本実相寺祖師開帳

○三月十六日永代寺以て信州戸隠神九郎龍控現開帳別当 顯光寺

○四月初旬より風邪流行「人のあり小袖の襟松髪をさし蜀山人

○四月朔日より回向院本寺法院如來母後會天満宮開帳○同日八茅場町

茶師内之新座郡次上親世吉開帳四月十日永代寺境内小堂居の飯や雨後龍齋れ俄に傾き人怪象多く即死二云

○深川仲町盤纏葬まんさうあんの山人天孫びらうど成りといひた物たをた多た歎た本たをた

造りくたをた了た○四月廿六日拉方師千種庵恒海卒五十一才松山中要助号霜翁と云春林あり今戸松福寺小藤以

○五月十日より回向院と河及森井八幡宮開帳在陣ありて半途お止む○八月廿二日より

浅草新堀正行おろ常乃大塔村正おろ大蛇おろ濟おろ成おろ親おろ為おろ上人おろ像おろ開帳おろ

○七月十六日より枡場神明宮内天満宮開帳○七月四日画人晁有輝卒松町ん法也小藤以

○七月廿一日儒師病谷空やぐら卒名慎林森を弁白泉寺小藤以○八月上旬毎夜多雨小の方常皇於

出下旬へ西ふんえん又又曉又中又東又よ又と又○九月三日深川本宿新武蔵屋と山旅せんがわ宿せんがわとせんがわりせんがわ夫せんがわ火せんがわ烈せんがわ風せんがわありせんがわ

為せんがわ創せんがわ立せんがわ丁せんがわ程せんがわ焼せんがわ亡せんがわ○十月三日儒師せんがわ智せんがわ見せんがわ星せんがわ畢せんがわ卒名九林三年お事つ六才云

○十月廿八日東本願寺法堂せんがわ焼せんがわ成せんがわ辻せんがわ供せんがわ養せんがわ危せんがわ傍せんがわ為せんがわ樂せんがわとせんがわりせんがわ諸せんがわ人せんがわ駭せんがわ今

年岡山五百五十年の遠せんがわとせんがわりせんがわ○十一月十六日善六時之南竹馬町三十日せんがわよりせんがわ出せんがわ坐せんがわ院

風せんがわ之せんがわ中せんがわ通せんがわりせんがわ一せんがわ出せんがわ河せんがわ岸せんがわ一せんがわ焼せんがわ校せんがわ本せんがわ町せんがわ河せんがわ岸せんがわ迄せんがわ出せんがわ夜せんがわ九せんがわ時せんがわ深せんがわるせんがわ九せんがわ十二せんがわ町せんがわ程せんがわ焼せんがわ亡せんがわ

○十二月二日書家荒木適齋卒名翹之孫大治丸山若承も小藤以○十二月十一日夜九時之浅草折稻

○十二月二日書家荒木適齋卒名翹之孫大治丸山若承も小藤以

○十二月十一日夜九時之浅草折稻

○十二月十一日夜九時之浅草折稻

荷裏通りより出火為小風強く新堀河新川町より三筋町を越えより福  
寺唯念寺焼る○河刻赤川橋向より出火敷洲の辺に新焼と

○江戸身寄枚年代記刊行十五卷 立川馬馬作三津芝居の基立りの記録より  
今年より十二年迄迄く小下り行

文化九年壬申

二月十五日より羅漢寺にて岡山念持佛河津院を来開帳○三月三日より信谷

長谷寺あり京清水を親世寺開帳 赤清野々山内諸  
商人仮やれを列 ○三月五日より洲崎寺

秋又開帳○二月より池の妙音あり佐渡の谷妙照寺祖師開帳○三月十四日

より押上春慶寺善賢井開帳○高美本下川降光寺裏門の通樞樹を多

く載る○四月廿六日二高自寛卒 百八十八名景雄称吉を勝三高中一も小位忠孝和子也  
又能書あり後学彩燈器思ふ小華以

○五月十八日より芝巻岩山より下総花寺より 開帳○月十八日儒師山本

北山卒 百一十才名信有称在云  
小石川茶町中念ふ小華 ○五月廿五日觀相名人石竜子法眼卒○七月大水

不切あり○七月八日法如英慶和上迂化 信谷村宝泉寺小華以  
世嘉 近世の願種也 ○八月廿七日

武化若市場通災終 後学祝云  
小華以 ○八月末奉取中極本寺あり越後修典

寺宝物を拜せむ○九月粟鴨條井の極本屋あり業の事を以人物を歎

何れあり色々の形を造りて諸人ふるまふ江戸中のせ積日毎小群集

て見物しられ年毎小盛小あり九五十餘り不乃小文化十二年迄り

まより後造物の止む 以時業の昔付業内記修災紙の  
教あり小下りせり

抱一上人極本屋何某が座中の化り菊を激り 又劣り一人のより後や造り業

○九月二日下総國相馬郡若代宿百姓忠義娘と名八丈あり男子を生母子

恙あり○十一月四日八半時大地震 あく土瓦毀色用水桶の水とぶる能あり  
石川林宗川辺を強直倒傾怪事人あり

○十一月十七日書家田中鴻基卒 百八十八名景雄称吉を勝三高中一も小位忠孝和子也  
小華以 ○十一月廿二日夜五時正龍泉寺村より

出火南列火風より右京新町へ火移り又一廓委く焼亡くまより西水の

風ふりり田町一飛小る乃百親言述一曰丸町山の宿の辺近焼一川  
越り本所苗場町の辺少焼る 吉原丁飯田町聖天町丸町山の宿三谷  
孫川小く不あり聖子八月元化一うつる

○此秋多羽町二丁目三丁目ありの西の裏子小上水の傍りて焼せら  
ら玉衣の藤と号以言一丈五六尺幅をり餘り乃左右山を作り四時の花木  
を栽り例小茶店をかり往來の人乃休之所とあり天保の始より廢せり

深山より移るる藤の玉衣これくちてそつるあま月の月  
乃ふそつるこも芳羽のまきさくさくさくりぬる俺の岩浪 畠山人  
縣鷹

○十二月十九日書家箕田牛山卒 号福齋麻布宗嚴子小華以  
長男に卒歿吉名藩号孫山と云 ○十二月歳

寒く國川氷あり○十二月廿九日夜五時前桶町より出火西小裂風雨傳  
る町より系橋竹川岩金古町近焼亡○此以カラシ糖といふ瘰のくより  
賣街せり 蛇の目の故舟より拘高とくひ管差とくあり細袋を脊負ふ声ふ  
カラシトウと号皆仍減量取町小舗とも出せりとも程あつ度より

文化十年癸酉 十一月日

二月二日夜九時三三河町武丁目裏通より出火一七武家方四軒程三河

町一丁目三丁目皆川町永富町松下町鎌倉町新草屋町新焼夜明り后  
結る○同十五日夜亥半刻下谷所成道美田豊前屋の南隅をより出

火烈風ふりて石川屋所を焚て吹越一丸一茶店の裏ふりて左右小ひり  
りり向例より仲町向例焼り以焼失池の端裏通り加倉屋を越西の三枚橋

向料理屋松坂屋の例東の呉服店松坂屋の例より上野町山下を焼る

○三月より清まる念佛堂より常州麻島を神宮不断經所廣徳寺赤童子  
園焼○三月八日より池の妙音より二の江妙塔寺祖師園焼○三月より隅田

川本母寺本寺茶梅若丸像園焼○三月菱垣上杉様仲間十組同屋株式  
定る この時の人数  
千九百九十六也 ○三月廿日より火久保西向大満宮園焼○四月朔日より今

戸八幡宮園焼○五月九日より浅草先本覺寺祖師園焼○夏芝愛宕山

権現園地 ○五月愛宕山別当田福寺にて長鬚會あり秋田彦の侍醫大園  
大中之いふ人取との形を以て老人を集めて書画の命を僅に成り

七十より八十の歳を以てていふはこれなりとあり

○五月廿日より五日の百九代目森田勘弥壽程言典形 ○五月廿日狂言師子柄

園持率 七十九才平次氏名常富五月成 ○夏浅草寺老女糸乞の池水車を仕置人方を

用ずる人形を踊るを唱物を唱ふる見世物あり ○六月二日より回向院より

常則筑波山藤原蚤影山権現園地 ○六月初旬より蕎麦を食へ死るといふ

俗説初れ蕎麦を食ふ信ひあり ○八月八日書家大橋重雅率 浅草橋筋中

○十月廿八日法橋五松崔林翁率 花子出羽玉栄次の人寛政中江戶より来りて京師に

姓とあり五松を氏と以再び江戶よりおむ地に住す孝乃を教授す今年七十才ありて京師に

○十月九日明六半時東方六二尺餘りの光物飛ぶ 武州生妻村の田舎に雷

○十一月廿八日夜九時品川宿指白火三町の除焼亡せり

和泉町東側より之坂町塚町葺屋町為座の芝居難波町より町家物町

稲荷堀酒井彦山中より小室より翌朝六時迄焼火す ○十二月二日善六時

より花川戸町去年焼跡より家々皆焼跡連焼亡せり五十餘日雨雪

く日く小火あり ○十二月四日官儒尾花二洲率 六十九才名孝榮林家命

○十二月六日書家松會平渡率 七十才名芳文林三四郎 ○若菜焼町六年以切小

ありて何れも今年地盤の居宅一團以てのみより町名を唱ふる事あり

文化十一年甲戌

正月十日夕七時より俄小風吹あり雨之家屋を損次日初卯申鹿戸  
妙義社系清群をさしけるが此暴風小家根舟猪牙舟殺被保し人多く

死龜沢町にて侍入室中火上三三 ○正月十四日善時八代例阿卷より火火

○正月廿五日画工杉田龜五卒号清風飯野近土物店 ○二月深川砂村元八幡宮

より前四五町の石稚木の八重権を裁ふ毎妻遊観多し

○二月二日より十五日の石崎弘法大師開帳 ○三月朔日より永代より成田

不動尊開帳寺綱職大権灯米俵造り物未熟しくなり此時より寺納 ○三月三日より日向

院より中總石崎村集結する不動尊仁王尊六九尺開帳 ○三月六日夜大南大

雷不三踏おろ ○同八日より押上法思あて系奉國寺祖師大聖天畢諦女親

尊法正三開帳 ○三月十日書家佐野東洲卒名潤彩 ○三月十八日六十日

の石法更親世三開帳日より一の権現開帳寺外境内の権現 ○同廿日より所

為八幡宮之秋又子権現開帳 ○四月朔日より隆谷金王八幡宮開帳新田平家町小新町より六廿九尺計りある坊

○四月朔日より谷正法院権為明開帳寺外境内の権現

舟月の門人 ○浅草お祭之彩を用ひて ○同日より浅草金花院子安初世言開帳

○同日より中野宝仙三不動尊開帳 ○同八日六四谷新宿子安権為本北十一面

親世言開帳 ○同十九日より西新井弘法大師開帳 ○四月より七月中旬戸

及諸國大旱懸 ○六月十八日百瀬流筆道の師耕

元卒長瀬耕雲門人より今年七十八才亦故法ある ○七月朔日より日向院より河河州

壺井八幡宮并権現開帳 ○七月系上羽村桂姫名代何某 官許

と好く勅化の為武家町を巡行す ○七月以より徳本上人小石川

傳通院より、徳人小十念を授くる是機の系諸年集結し

○秋護國寺親世音開帳弟新群 ○十月廿日夜上野所本坊火 ○十月書家

田中玉峰卒名別林收死 ○十月八浅草より奥山一謎坊主と以小若知

の盲坊主を承小ありて見おり継をけて即夜小、若解得はる時ハる者人小ありとある

て名を重雪との入喜の雪の如く 健を以て解くくしん是を學ひ方りの向ふも出されたり  
 あり及びありありあり 翌年其島うけりて其の産不遠その雪とくはくはく  
 ○十月七日儒師中長豊測平 名幹 稱周古 号松南 秋香庵  
 儀史日掃るゝ華以京の必村とるゝいゝあり  
 ○十二月七日夕七時聖堂の内学問不火  
 被ふ似るそ草の画蹟多くあり

文化十二年乙亥

正月十日六月より雲霞多し 二月十日迄 大雪なり江戶と城路の入り口 皆人毎にちかちかあり 曳尾居  
 ○三月十一日より中山法花寺奥院祖師 少閑帳 ○四月朔日より  
 廣尾天現寺毘沙門天閑帳 ○同十五日より江の浦上の宮寺天閑帳 未指迄  
 ○四月日光山二百田所神皇所法會 ○六月朔日より日向院を後父大  
 日向山久陽寺 ひがさき 大士再帳 ○六月二日抱一君尾光琳の百年忌修らる  
 ○六月廿五日書家後込東河平 名彰 林文平 儀史祝言ふ小葉 ○徳本上人傳通院本堂再火

鴻小大日堂再建 ○今年ノ肇り朝皇の異品を玩ふ可なり文政の始に都下の貴族  
 園小裁一室小移とて遂今を設く 中よりハ年の具ふくはまても 遠橋山人

○七月朔日より日向院を甲初善光寺如來閑帳 ○同十六日より下谷徳大寺  
 摩利支天閑帳 ○七月廿一日長遠寺にて下谷徳大寺法蓮寺祖師閑帳 ○同日より  
 法蓮寺念仏堂をふく出羽國湯殿山黄金堂於竹大日如來再帳 冥室小茶亭茶室 子たの 組ありお出組小葉編細と  
 用ひる ○十二月雨森牛南卒 卒方名宗真 号松蔭 不浪村 秋香庵 蘇若

同十三年丙子 八月間

正月廿五日舟人安田躬弦卒 号兼本 称一巷 号松南 秋香庵 蘇若  
 ○二月三日木下川海舟茶師如來閑帳 ○三月十五日日向院より同  
 是祐也本名閑帳 ○二月十六日淺草トブ店長遠より鎌倉本堂より祖師花  
 帳 ○月十八日湯島社地より野島海山寺地蔵菩薩閑帳 ○同日より池の妙言寺

祖師開帳○四月朔日ハ獲國より相州松本親世言開帳○四月廿八日ハ後草芝草  
信法養より地之旅立ハ祖師開帳○初夏より壬八月迄江戸渡瘧流行人多ク

死以○五月三日朝草芝町相長相長芝居東長十言折折ノ年必チ周年敷院の翌年草芝の死  
本海名橋村郡下里川村松山神社の神本

○五月三日申刻在東京町より自少出火一郡焼亡板尾田町至芝草町の南町  
死町江戸あり

○五月十七日 画人鈴木芙蓉卒六十ハ身名雅一号老蓮  
後芝草町大仙小芝

○六月十八日ハ日向院より府中深大寺元三大師開帳○閏八月三日四日

大風多人家を損一樹木を倒尺江戸中野出水本寺敷の隣接倒ト本不深川の辺  
家ハ崩ト水あり

○九月七日戲作若山東京傳終若山氏名醒稱傳終  
幸六才日向院小芝

○九月梅振返り咲き一○九月以夜入ていゝとあわ物子と名り太鼓を打者

○九月廿二日より幸橋所門外畠地ハ終て親世を交奉  
賜 勅進徳

○十一月十九日他人

不隨無成美辛佐藤井筒屋八郎六郎  
車返町蓮花寺小芝

文化十四年丁丑

正月十二日曉八時雨中新糸物町南側より出火有度芝居焼亡忠代町大坂町

志左衛門町人形町通敷焼○正月月中旬御師律雲庵卒此喜の歳は  
梅子て同日ヤ

○二月九日画人金子金陵卒金陵  
允圭

○二月朔日奉新法

○二月朔日奉新法

○同日ハ後草芝草親世言開帳○同日ハ後草芝草親世言開帳

○同日ハ後草芝草親世言開帳○同日ハ後草芝草親世言開帳

○同日ハ後草芝草親世言開帳○同日ハ後草芝草親世言開帳

○同日ハ後草芝草親世言開帳○同日ハ後草芝草親世言開帳



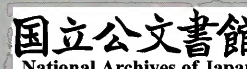
相見梅澤吾妻控現関情 ○同日より石見他系才天内之て上洲新田医王も旭  
 茶師如東之茶情 ○同日より同系韓茶師如東関情 ○四月朔日秋野野谷花平  
 於各名名信教天愚孔平と号以俗称花内と云雲丹彦の史氏之於年百天下谷茶宗も以義以神  
 佛千社ありと号し之れを強ふ不幾年のうら刑先と付て殺十夫のち後の爲根とていふも亦くする  
 之又以人より始りていふ寛政の以より始り天保の以より始りていふも亦くする  
 寺社といふも信の多あり之れを結以ていふも亦くする  
 〇四月十七日官医松田元伯卒 七十八名 醫學博士 松田元伯  
 〇四月十九日御師雲中菴 七十九名 醫學博士 雲中菴  
 〇五月四日官儒吉本精里卒 七十八名 名 醫學博士 吉本精里  
 〇五月より七月まで  
 江戸幕府も大旱 ○八月九日官儒岡田寒泉卒 七十一名 名 醫學博士 岡田寒泉  
 算術の師倉田算方清の安政卒 七十一名 名 醫學博士 倉田算方  
 降福橋浩十寸見沙洲死 山谷まき院小僧以死後始とて 七世河津と以河津の名号小僧とす  
 〇十月廿二日晴久未刻以江戸  
 市中雷鳴の如き響きて光り物室中を飛入 武蔵八王子横山宿の畑中一畝より 長三尺幅七尺八寸厚燻りたる石  
 此年間記事

文化の始より浅きも七月十日の四方六千日未赤き蜀黍を雷除とて商  
 ふる始り ○浅きも奥山之社控現の店一人磨の社を建り社辺小山吹萩の歌を載  
 景色を造り ○日暮村小富士山を築く ○日暮里青雲寺の布袋此巨像を  
 修性院へ移し ○和合社の画像を作り始り 其圖へ人の初る所を以て後道以波来とる後道の板小多あり画上下題して和合生万福日進太平  
 錢隨亭高辛書希幸吉兆圖と有り貴人も常小本小樹られう大觀平次平藤が誘懸に行い以人本  
 折捨ふ和合社のものと有り其の法則とていふ山拾得ありといひつて一若るもて月人の瓊浦筆話  
 小載せり又清人蔣士詮の忠雅集小画和合神の持ありて寒山拾得の二人のものとせり荆山先生の  
 編輯燕居雜話小ありと有り  
 ○叶福助といふ泥塑人を作り始りて之をせり 是の昔より有りて三平二海女小對してつくりまけりあり  
 ○江戸坂田郡國友村鉄炮船治國友藤玄清能高といふ人茶字の醫師山  
 田大園も流り蘭人推考する所の鉄叢中一風を籠め火薬大繩を用ずして  
 風の勢を以て放つの鉄炮一別小形を以て加へて凝らして風飽又と号し  
 一割を以て始り 蘭名ウインドルウルと云文政の初より世に於ては小葉製のものも一發あり和製は二葉三葉小ありといひ



○文化七八年の以て石菖蒲の異品を玩ぶ事盛なりしを惜み  
 其後これを賞玩し 所謂為根三種異葉黄金虎斑細脊長生及蒼老有極川正宗蒲尚  
 聖山虎の巻物雪置夜久天下天翁織通縁青葉廻入ると云々の名あり  
 ○此時代名家△儒家山本北山龜田鵬斎△太田錦城朝川善庵△詩市河  
 寛齋大澤久氏館折湾葉地立山△書輪池屋代義中村佛房後辺  
 東河恭星池関克明松本竜彦董堂敬義中川由義△井親孝  
 △狂哥為歌蜀山人六樹園 文舎 蟹子丸 三院雁法師千首楼堅丸 鈍亭  
 和持琴通舎英賀△俳諧林田房小知宜妻自然堂風朗不随舟成美八系  
 園菟松田喜庵漢物小養庵碩嶺△画村野伊川院法平 同晴川院  
 法印同素川彰信抱一君谷文晁門文一依田井谷英一陸長谷川雲且  
 鈴木南嶺大長雲峰春木南湖△鑄物師村田整民△碑碣彫刻渡世  
 祥△金形戸端富久△刀鍛冶水心子正秀手柄山正重大慶並胤

△蒔繪師原更山 羊遊 坂内寛哉△浮世繪葛飾戴斗秋川豊國門冬  
 廣門國貞門國丸啼高北る香居法家柳居辰女折川壹信泉守 澤名  
 深川柳堤考琳月磨菊川英山勝川春亭門春庵在久川美丸△花形と  
 いふ俗名の存なりしを○神乃藤款坂田伊勢義龍文部日向乃り  
 ○雨々屋取和年々小減り○南無八十高富五郎不白の門入て茶事々  
 ようく根存 ○根岸田光寺庭中長廿七石横田尺餘の菴極あり一株の老樹  
 あり文化の以て盛の以て下の發人々小集ひ一か惜むべし文政始の以て  
 果つる○尾久村深山玄琳といふ人の園中小牡丹数株を栽置花の以  
 て物多かりし文化中より絶つる○文化の末大坂の竹本洋雲老丈江  
 戸小りり標座ふ於て茶れをさせり 文政中道に戸小 〇立川馬馬落味一の庵を  
 起つて之亭可樂朝露坊後樂出て跡盛小なりしを○狂言橋の模様遠明純



子の権様又伊藤藤とよ小藤物とよる 伊藤藤とよのよ藤ふ 比しう名あると ○文化の始より えび

紙のり皇朝藝海旅舎の ヤバヤ 今井某これを製し始 江戸 中へ商りむ

○和製家席紙始 撤舟の人朝正新我樂通杯中川俊右衛門といひのくまむ若年の紙 下白登所不位 文化三宮年集 官許を以て後文政十亥年

深川扇橋小栗地を賣求て これを製せめて世に 又根十有模立百の紙を製しと案集 紙と号し天保元年亥十月六十八亥 一く終まり

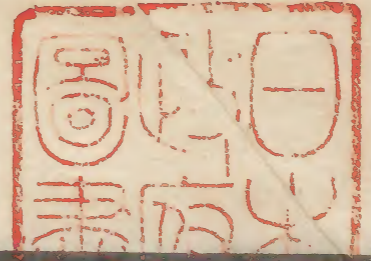
○ギヤマンの洗器物を製し始 む其製船来の 此小う る ○琉球扇とよ

○居風呂の鉄炮小火を焚 て 湯の中へ金魚或ハ鯉 の 紙を を

とよ世物とよ為國儀芝洲義 あ 小 あり

○小村玉地稻荷社へ 一 症瘕 を 患 ふ りの 形 於 て 美 徳 を 得 り し あり

系消 する 事始 す



武江年表卷之七終

